



■歌碑群
神明神社前の十五個の石に俳句、和歌などが刻まれています。
※字ぶ／残りの歌も調べてみましょう。



■五本立石
俗に「メンヒル」と言われているもので、新石器時代から金石併用時代の巨石記念物で、国内では秋田県立石や大湯で見られます。イギリスや地中海沿岸に多く残っており、大きいものでは四メートルを超える高さがあり、古代ロマンをかき立てられるミステリアスな構造物です。



■武並神社
岩村城主の命によって領内に建立された七社の一社。社伝によると建武2年(1335)8月創立、その後幾度か再建されている。保存棟札の古いものは貞享4年(1687)5月27日と記されている。神社名はその時代によって、それぞれの呼び方をしている。祭神は大己貴命(大国主尊)・少名彦尊 應神天皇が祀られています。
※毎年10月の第2日曜日には、秋の例祭「道笛まつり」が催され、道笛と子供みこしなどの長い行列が豊作の田んぼ道を練り歩きます。道笛は道中で奉納される横笛で、江戸時代からの歴史があるといわれています。

極楽は 欲す余地なく 地獄として
間の宿場に 我は停まる

山路来て 何やらゆかし 寿美達草

遊ふ世乃 来ていそかしき 桜か那

峰月道人
ばせ起
一世 杏仙



二本立石

武並町「藤」のむかし話

土の中を歩く (恵那市武並町)

武並町藤に深い深い深田があります。むかしむかしの話です。ある人がその沼田へ入ると、ずぼずぼと頭のうえまで沈んでしまいました。

両手で泥をかき分けて、泥の隙間を作って息を吸いながら、「しまった、しまった。こういう深い田んぼへ入るときは、板を渡して、それに乗るようにして、はいらいやいかなんだわい」と後悔したけれど、はいてしまった今ではもう遅いのです。

「えい、めんどくさい。この泥の中を歩いて行けるとこまで、歩いて見てやれ」

その人は、そんなひとりごとを言いながら、泥をかき分け、かき分け、泥の中に埋まりながら一生懸命で歩き出しました。

眼に泥がはいるので、眼をつむって、両手で泥を掻き分け、もがくように進んで行きます。時には高くなって、出られそうになったり、また低くなってがっかりしながら、土のなかを進んで行きます。

だいぶ長いあいだ歩いたところで、やっと底が高くなって、日がかんかん当たっている外に頭が出て、全身がずぼんと外に出ました。泥の中から、泥まみれの人が出て来たので近所で働いていた人たちも集まって来ました。

「ここは、どこじゃえも」と人々に聞くと、「ここか、ここは釜戸の狭の島じゃ」あれ、そんなら、おれは権現山の下をくぐってきたことになるわけじゃな」と、ふしげうに腕を組んで、考えておったそうです。



資料協力 JAひがしみの

このマップは自分の町をもっと知ってもらうために、みんなで考え、協力しあって作りました。健康作りをかねて楽しんでください。

ウォーキングの注意

- タオル、飲物を用意し、歩きやすい服装で参加しましょう。
- 道路の横断、歩行は十分注意してください。
- ゴミ、たばこの吸い殻などは各自持ち帰りましょう。
- 自然の樹木、草木を採ったり傷つけたりしないで下さい。
- コースを外れたり、走らないでください。
- コース上にトイレはありませんので、ご注意ください。



問い合わせ／武並町まちづくり町民会議 交流部会
武並コミュニティセンター(内)
TEL 0573(28)2427

このマップは市町村振興補助金を利用して作成しました

武並町

Takenamicho
Fuji Fureai
Walk Map



ふれあい
ウォークマップ



武並町 藤の紹介

武並町は、恵那市の西端に位置する人口約3,400人の町。江戸時代は藤村、竹折村に分かれていましたが、明治22年の町村制の施行により、武並町に統一されました。現在、藤地区には約1,182名、竹折地区には約2,186名が暮らしています。折地区内には中山道が東西に走り、一里塚、姥が茶屋、幕府の政令を村々に伝える高札を掲げる高札場等、多くの史跡があります。この道筋は当時の面影をよく残し、ここを歩けば江戸時代にタイムスリップできます。その他にも知らない見どころがいっぱい、新しい故郷を再発見できます。

知っておきたい 地名の由来

現在の藤地区は、延喜年間(901~922)の頃から「布志」と言っていたようですが、文明年中(1469~1486)に尾張の国、大草の城主、西尾式部道永が「ふじ村」の対安山山頂に城を築いた際、随行してきた曾我氏が富士山頂より浅間神社を迎え、広久手の丘陵地に祀って富士神社と称した。

その後、「布志」を「富士」と言うようになったが、霊峰富士の名称を使うとは恐れ多いとのことで、谷間に咲く藤の花にちなみ「藤」の字を用いるようになったと伝えられています。

知っておきたい 史跡と言い伝え



弥五郎神社

■弥五郎神社(やごろう様)
昔、織田・武田の戦乱の時に多くの軍兵により村内が荒らされ、掠奪を受けた。その時、尾張津島神社の神官が信州赴任の途中に、乱兵に間違われて村民に鎧銃で射殺されてしまった。その後、太平になったが、ある村人が沢尻の山中でドクロ

を見つけて持ち帰ったところ、村中に疫病が蔓延し死亡者が続出した。「神官銃殺の祟り」と知り、尾張津島神社で罪を許してもらう祈禱をしたところ疫病がおさまった。そこで、寛保3年(1743)6月にその骨を埋める碑を建てて弥五郎殿としました。愛知津島神社に祭られている堀田弥五郎と同一人物かは、はっきりしません。

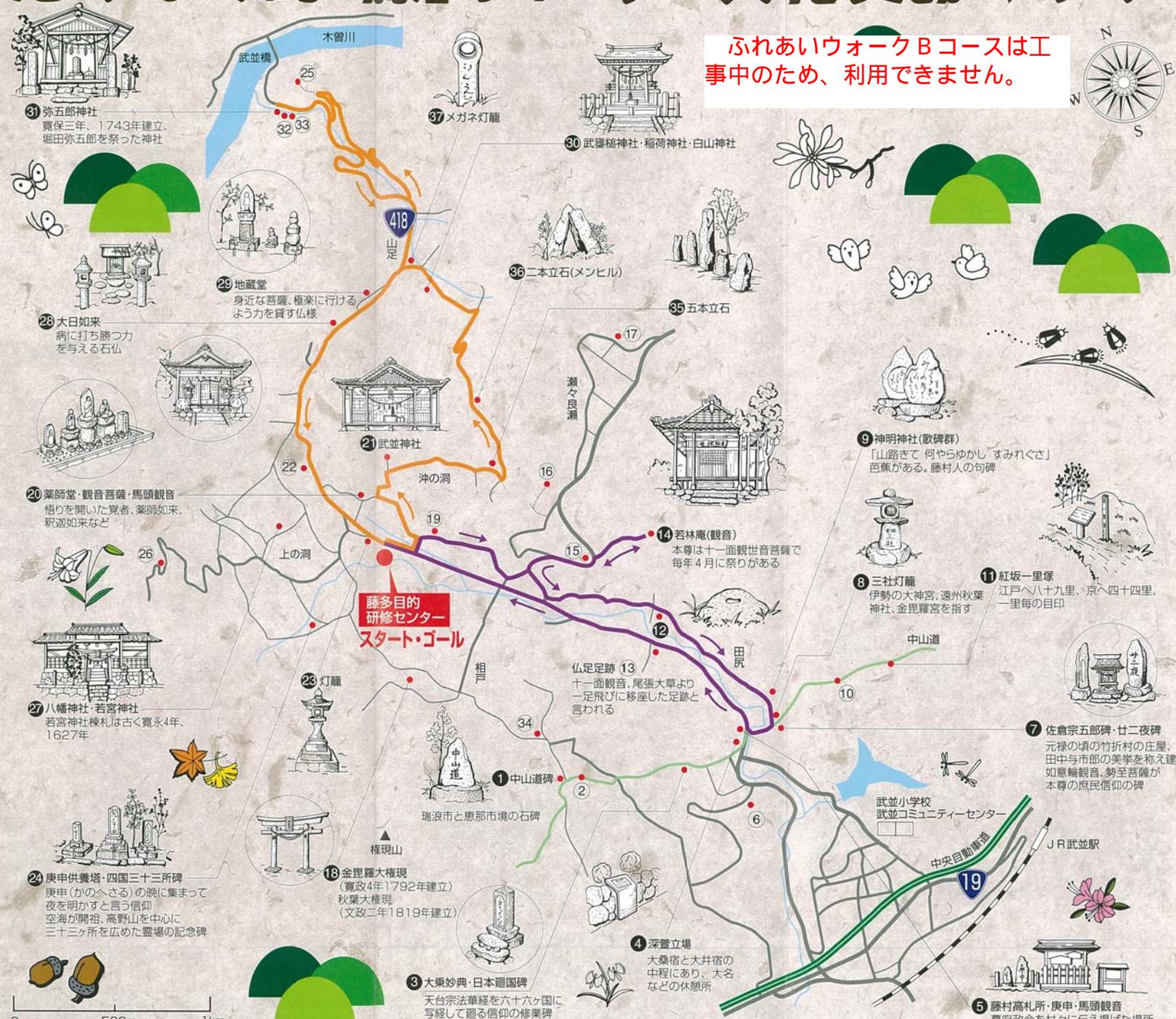


若林庵と給天井

■若林庵(若林観音)
延徳年中(1489~1491)に刈萱城主の西尾式部道永が、尾張の大草から十一面観音佛を迎えて祭ったと言われています。延宝6年(1678)、明和5年(1768)、文政6年(1823)に再建され、堂内の格子天井には130枚の奉納絵が納められ、給天井となっています。武並最古の俳句奉納額「文政3年(1820)」も残されています。

たけなみ町「藤」ふれあい文化史跡マップ

ふれあいウォーク B コースは工
 事中のため、利用できません。



歴史とロマンあふれる武並町 ふる里「藤」を歩こう

ふれあいウォークコースマップ

ふれあいウォーク Aコース(弥五郎神社コース)

■所要時間約3時間
 スタート:藤多目的研修センター→武並神社→立石→武薙槍神社
 →めがね灯籠→弥五郎神社→地藏堂→大日如来→ゴール:研修
 センター

ふれあいウォーク Bコース(若林庵コース)

■所要時間約3時間
 スタート:藤多目的研修センター→津島神社→州原神社→若林庵
 →仏足足跡→歌碑群→仏足足跡→ゴール:研修センター

たけなみ町「藤」ふれあい文化史跡マップ

- 1 中山道碑
- 2 三城峠
- 3 大乗妙典・日本廻国碑
- 4 深萱立場
- 5 藤村高札場・庚申・馬頭観音
- 6 秋葉大権現碑
- 7 佐倉宗五郎碑・廿二夜碑
- 8 三社灯籠
- 9 神明神社(歌碑群)
- 10 ぼたん岩
- 11 紅坂一里塚
- 12 若林庵(観音)
- 13 州原神社
- 14 白山権現社
- 15 大将軍武薙槍(タケミカズチ)神社
- 16 金毘羅大権現・秋葉大権現
- 17 津島神社
- 18 薬師堂・観音菩薩・馬頭観音
- 19 武並神社
- 20 洞禅院
- 21 灯籠
- 22 庚申供養塔・西国三十三所碑
- 23 牛頭(ゴス)天王社
- 24 てれつく様
- 25 八幡神社・若宮神社
- 26 大日如来
- 27 地藏堂
- 28 武薙槍(タケミカズチ)神社・稲荷神社・白山神社
- 29 弥五郎神社
- 30 水神様
- 31 天王様・牛頭(ゴス)天王神社
- 32 馬頭観音碑
- 33 五本立石(メンヒル)
- 34 二本立石(メンヒル)
- 35 メガネ灯籠

